

# 校長室だより

今日は入学式でした。新入生の保護者の皆様、お子さまの御入学、心よりお祝い申し上げます。

今日から福岡小学校の1年生。真新しいランドセルを背にしたお子様の姿に、喜びもひとしおのことと思います。

上級生たちと私たち教職員は、新1年生の小学校生活の第一歩を温かく迎えたいと、この日のために学校をあげて準備してまいりました。

子供たちが一日も早く学校に慣れて、たくさん学び、遊び、明るく元気に学校生活を送れるよう、力を合わせて努力してまいります。

どうぞ、保護者の方々の温かい御支援と御協力をお願いいたします。

さて、私事で恐縮ですが、今から55年前、私は福岡小学校に入学しました。着物姿の母に手を引かれ、嬉しさと照れくささ、そして不安と期待を抱いての入学式でした。木造の旧校舎の「集会室」という少し広い部屋で、一つ上の学年の先輩が「歓迎の言葉」をくれたことや、それから何度も歌うことになる「福岡小学校校歌」を初めて聞かせてくれたことを今でも断片的に覚えています。

あれから55年、卒業から49年。母校に校長として着任し、孫世代の教育に携われることに感謝し、精一杯頑張ります。よろしく申し上げます。

<ここから先は昨日と同じ内容です>

昨日、2年生以上の御家庭にも発信したのですが、「長所と短所は表裏一体」とか、「弱点は強みに変えられる」といった言葉があります。

一見、弱点や短所に見えることも、視点を変えれば、それは強みでもあるという意味です。

子供の場合、「落ち着かない」とみるか「活発である」と捉えるのか、「心配性」とみるのか「慎重」と捉えるのか。見方、捉え方によっては短所も長所になります。教師の場合も「厳しい先生」とみるか「毅然とした指導ができる」と捉えるのか、「甘い、ゆるい」とみるのか「やさしく温かい」と捉えるのかで見方が違ってきます。

家庭と学校は子育てのパートナーであり、車の両輪ともいえます。一方だけが強く回っても同じところでクルクル回って前へは進めません。同一歩調で進められればと考えます。教師は万能ではありません。ですから互いに欠点を補い合って「チーム」として教師集団で対応していきます。御心配な点やお気づきの点があれば、遠慮なくお問い合わせください。学級担任はもとより、学年主任、養護教諭、生徒指導主任、子どもと親の相談員、スクールカウンセラー、管理職など、相談の窓口を広げてお待ちしております。

本校では、「自分から、自分で、自分らしく」をテーマに、自発性、主体性を育て、更なる個性伸長を図っていきたいと考えています。子供たちに寄り添い、一人一人の自己実現を目指して、職員一丸となって教育活動に邁進してまいります。御理解と御協力の程、よろしく申し上げます。 校長 中田邦明